

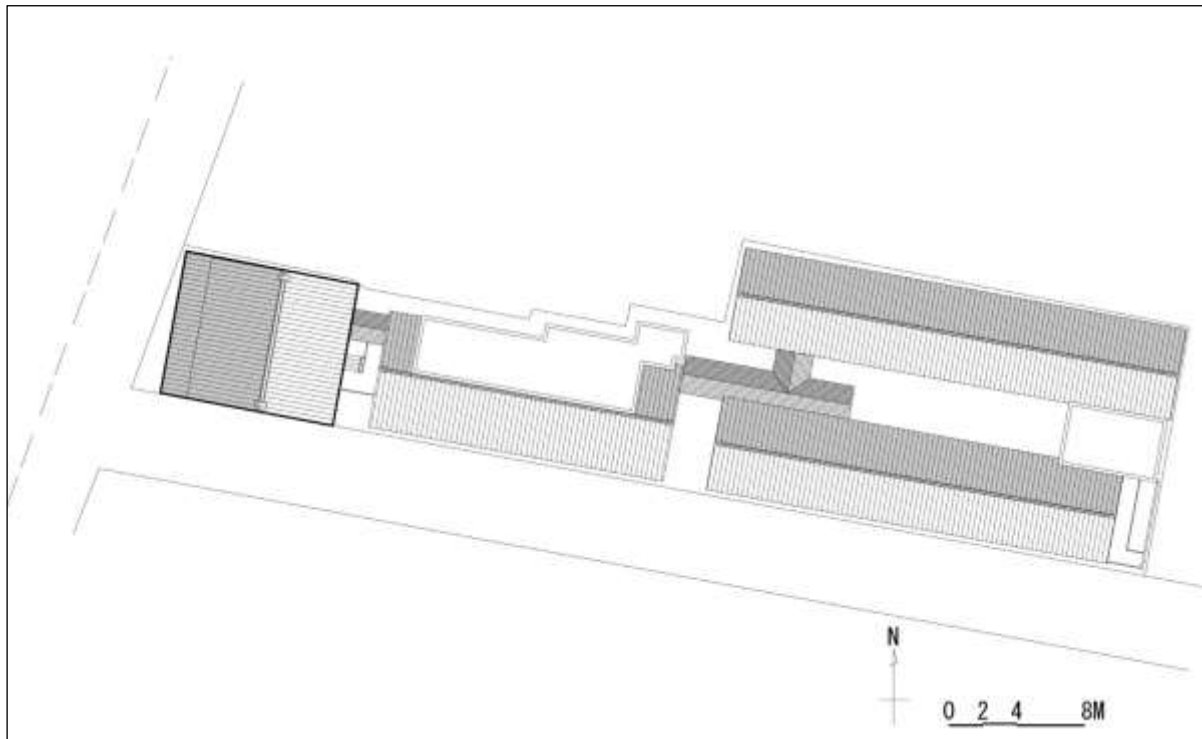
歴史的風致形成建造物 指定台帳

指定番号	5	名称	とちぎ蔵の街観光館 観光物産館 【旧田村家見世蔵】
指定年月日	令和2年3月11日	所在地	栃木市万町340番地8
所有者氏名	栃木市長 大川秀子	所有者住所	栃木市万町9番25号
建築年代 (根拠)	明治38年(1905)建築 (墨書)	規模・構造	木造 瓦葺 2階建
特徴等	<p>大通りの東側、神明宮に通じる路地の北角に位置するとちぎ蔵の街観光館は旧田村家の建物で、豪壮な見世蔵と文庫蔵、2棟の荷蔵からなる。</p> <p>田村家は、かつては「八百金」の名で知られた栃木でも有数の麻荒物商であったが、戦後になって商売をやめ、一時期店舗を人形店に貸与していた。その後栃木市に土地は売却、建物は寄贈され、改築・改修を経て平成11年(1999)からとちぎ蔵の街観光館として活用されている。</p> <p>かつては、見世蔵に続いて住居と現存する土蔵群の北側にさらに3棟の土蔵が連なっていたが、腐朽が進行していたために改築された。いずれの建物も小屋裏の墨書あるいは田村家所蔵の『普請調上帳』によって建設年代が判明している。見世蔵が明治37年(1904)6月起工、明治38年(1905)上棟、文庫蔵が慶応4年(1868)上棟、2棟の荷蔵が明治28年(1895)及び明治32年(1899)起工である。</p> <p>見世蔵は2階建・棧瓦葺で切妻・平入り、間口4間・奥行3間半の4尺5寸の下屋庇を設けている。1階は土間と帳場からなる店舗で、2階は2室の蔵座敷となる。外観は黒漆喰塗の重厚な蔵造りで、2階軒先を出桁造に4重蛇腹とし、箱棟や影盛も他の見世蔵より一段と大きい。窓は前面を鉄格子に引戸の横長窓とするが、南側側面には観音開扉を設けている。見世蔵は平成9年(1997)、市指定文化財に指定されている。</p>		
形成する歴史的風致 (指定理由)	<p>商家町栃木にみる歴史的風致(物資の集散による問屋業の発展にみる歴史的風致)かつての荒物・麻問屋といった問屋業を営んでいた頃の建造物で、物資の集散による問屋業の発展を物語っている。</p>		
備考	市指定文化財(平成9年(1997)3月19日)		





とちぎ蔵の街観光館 案内図



配置図